

2022年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名: 韃衆(ふいごしゅう)

活動名: 空き家を多世代交流の拠点に! 棚田の魅力を発信!

★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

韃衆は、2018年7月に結成しました。

韃衆は総勢18人で活動しています。広島市内で働く社会人が中心です。



<結成の目的>

「社会のために何かしたい」—— 韃衆は、そんな若者の心にある「何かしたい」という小さな火へ、仲間として一緒に活動をして「韃」のように風を送ることでその火を大きくし、地域社会のために共に行動を起こせるきっかけを共有したいという気持ちを込めて結成しました。

<活動の目的・方針>

安芸太田町筒賀地区の古民家「大畠の家」(大畠は屋号。現在は空き家)と、同町にある井仁地区の棚田の2つを拠点にして、多世代交流の場を作っています。活動の主な目的は3点あります。

- ① 空き家を若者の活動拠点に変え、多世代交流イベントを通して学びを得る
- ② 先人の知恵から学び、その歴史的背景や技術を継承していく
- ③ 若者の発想を創造に変え、地域社会のための行動を起こす

「大畠の家」にはかつて使われていた古い農機具や五右衛門風呂など、若者の知らない「先人の知恵」がたくさんあります。本活動では、ただ知って終わるだけではなく、時代背景や歴史もあわせて学び、さらには知識を応用していけるような人材育成を目指していきたいと考えています。

「井仁の棚田」は日本の棚田100選に選ばれるほど魅力あふれる棚田です。しかし管理者の高齢化や過疎化が進み、地域課題も抱えています。私たち若者が楽しみながら盛り上げ、魅力を発信していきます。

2つの活動拠点

- ・大畠ハウス
- ・井仁の棚田

どちらも、戸河内ICを降りて車で約5分です



★ 活動内容 (実施日、場所、目的、内容、参加人数等)

2022年夏*竹テント制作イベント

大田設計事務所の大田代表を講師としてお招きし、10名の参加者を募って井仁の棚田の竹をつかった竹テント制作をおこないました。地域の方と一緒に井仁の森に入って木の伐採、竹をバーナーであぶり油を抜く作業、木材と竹材の加工、テントの組み立てなど一連の流れを体験し、テント完成時には参加者から喜びの声がありました。



↑伐採した竹を運ぶ様子



↑油を抜き、組み立てる作業の様子



↑組み立て中



↑完成

2022年秋*かまどん体験イベント

鋳物づくりで有名な大和重工さんにお越しいただき、アウトドア用羽窯「かまどん」でお米を炊いたり、鍋を作る体験イベントをおこないました。災害時の生活など防災の観点からも役に立つ知恵も学べました。



2022 秋*井仁の棚田オリエンテーリング制作 (若ツナフェスタ)

若ツナフェスタでは会場が井仁の棚田となったため、他団体やアドバイザーの方に井仁の魅力を知っていただきたく、オリエンテーリングを企画しました。井仁の自治会長や寺の住職、地域おこし協力隊の皆様と話し合いをしながら井仁の棚田のおススメスポットを選出し、地域を歩きました。



↑オリエンテーリングの打ち合わせの様子



↑井仁が見渡せる場所でのお昼ご飯



井仁地区の住職さんが語る井仁の歴史の中から、少しマニアックな内容をクイズにしました。



2022 冬*大畠の家のカフェスペース整備

地域の方からも、川の見えるカフェスペースを作って持ち寄りイベント等をしようという提案をいただき、整備を進めています。農業用の古道具や木材を置いていた場所を整理し、危険個所の確認などを行いました。



BEFORE



AFTER

★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

井仁の棚田では、オリエンテーリング作成時や、展望パビリオンの設計段階などでこれまで以上に住民さんとのコミュニケーションを育むことができました。自治会長さんやいにぴちゅ会の方など信頼関係が築け、今後井仁を好きになる若者がもっと増えるように活動していくための基盤が出来てきていることを実感する1年となりました。

オリエンテーリングでは、企画段階から“海岸清掃プロジェクト”の学生さんにも来てもらい、学生の視点からも井仁のアピールポイントの意見をもらうことができました。オリエンテーリングの素材をつくることは、井仁の方から「念願だった」との喜びの声をいただきました。田植えや稲刈りなどのイベント時に、オリエンテーリングを併用することで井仁の魅力を多くの人に伝えることができます。井仁の魅力発信の一助となることができ、メンバーも達成感を味わうことができました。

団体の理念として、地域の方と「しっかり対話をし、一緒に作っていく」ことを大切にしています。非効率になる場面や、意見が分かれてどうしたら良いか迷うときなどもありますが、あきらめずしっかり対話することがメンバーにとって成長に繋がっています。コロナ禍でなかなか対面で会うことができない2021年と異なり、2022年は対面で地域の方やメンバー間で意見を交わすことができたことは大変良い時間となりました。

大島の家では宿泊もできるような基地に向けての整備や、大掛かりでなくても小さなイベントをこまめに開催しました。かまどん体験イベントでは大和重工さんにお越しいただくことができました。古民家リノベーションも、メンバー間だけでなく一般参加者も募る企画としていくことで、新たな出会いへと繋がっていく場にしていきたいと考えています。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

イベントで集客するも、交通手段における課題を抱えています。安芸太田町は車を持っている人しか訪れにくい場所なので、イベント化する場合には参加しやすい来場手段を検討する必要があると考えています。学生などにも積極的に声をかけていきたいのですが、どのような手段での来場をお勧めするか検討していきたいと思えます。

韃衆での活動は、農業従事者、林業従事者、地域おこし協力隊、建築士など様々な職業の方との出会いがメンバーの人生観にも影響を与え、“自分の生き方”を見つめる良い時間となっています。お互いの考え方を安心してシェアし合える、学びと遊びの空間へとさらなる発展を目指していきたいと考えています。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

助成団体の皆様の活動に大変刺激をいただきました。特に、各団体の活動内容が全く違い、多種多様な社会貢献の形を知ることができました。私たちは社会人が多い団体のため、退社後帰宅する時間を考えると19時開催のオンラインミーティングでは遅刻が多くなってしまいましたので申し訳ございませんでした。学生から社会人までが意見を交わせる機会は日常生活ではなかなかありませんので貴重な時間となりました。今後も、このように多種多様な活動内容の団体さんが助成を受け、マツダ財団様を通して活動内容を発信されることを期待します。この度は助成していただき誠にありがとうございました。